

バスケットボール戦評記入用紙

大会 (新人)・関東・インターハイ
 試合 (決勝・準決勝・準々決勝・決勝リーグ)
 日時 1月 21 日 日 曜日 第 4 試合 時刻 14:30
 記入者名 祐木 毅

A チーム	得点		得点	B チーム
昌平 高校	80	(58	川口北 高校

戦評

両チームにとって関東大会出場を決める重要な試合である。

第1P、両チーム共マンツーマンディフェンスでスタートする。昌平#8のポストプレイ、#14のドライブインシュートで先行する。川口北はいいタイミングでシュートを放つも決まらない。昌平は#13のリバウンドシュート、#7のドライブインからのバスケットカウントでリードを広げる。離されたくない川口北は#6のジャンプシュート、#4の連続ゴールで得点し何とか食らいつく。昌平#7の3Pシュートが連続で決まり、試合の流れは完全に昌平に傾く。川口北は#4、#5が何とかシュートを決めるも、シュート確率が上がらずに苦しむ。

第2P、第1Pとは違い、ロースコアのゲーム展開となる。第2P開始から得点がなかなか入らない両チームは我慢の時間帯となる。昌平#13が3Pシュートを決め、昌平ペースで試合は動き出すと思われたが、その後の得点につながらない。重い試合展開を打破すべく、昌平はディフェンスを2-1-2ゾーンディフェンスにし、速攻につなげようとするが得点にならない。何とか踏ん張る川口北は#11がドライブインシュートで得点し、点差を縮めにかかるが、昌平#7に3Pシュートを決められ、反撃のチャンスを逸してしまう。

第3P、開始早々、昌平#13のノールックパスから#15が3Pシュートを決め、昌平のペースで試合は進む。しかし川口北も#4、#5がジャンプシュートを決め、ムードが良くなる。さらに川口北はディフェンスをオールコートにしてプレッシャーを強める。これが功を奏し、昌平の勢いが止まり、完全に川口北の追い上げムードとなる。じりじりと点差を縮めていき、#4のドライブインシュート、3Pシュートで20点以上あった点差を8点差にまで詰める。川口北のペースのまま、勝負の行方は第4Pへ。

第4P、川口北#11がゴール下にうまく合わせて、シュートを決める。川口北ペースで試合は進むが、2度の速攻のチャンスを決めきれずに逆転のチャンスを逃す。嫌なムードを変えたい昌平は、ディフェンスを3-2ゾーンディフェンスに変える。川口北の勢いが止まり、試合の流れは再び昌平に傾いていく。昌平#8のポストプレイからのバスケットカウントが2連続で決まる。これが決め手となり、点差が再び広がっていく。川口北は最後まで粘りを見せるが巻き返す力は残っておらず、試合終了となった。この瞬間、昌平が2位となり関東大会出場を決めた。